



カール・フレドリク・リュングベリ 1977年4月16日、スウェーデン・ハルムスタッド生まれ。27歳。94年から地元のハルムスタッドBKでプレー。98年に約6億5000万円の移籍金でアーセナルに移籍。代表デビューは98年1月24日の米国戦。02年にはスウェーデンのベストドレッサー賞を受賞、02年W杯には頭頂部を赤く染めたトサカヘアで出場した。03~04年シーズンのプレミアシップの成績は30試合4得点。1m76、75kg

だろう。試合までにビデオなどで徹底的に研究させてもらうよ」

「ブルガリア戦の結果がグループリーグ突破の鍵を握っているのでしょうか。」

「ああ、そうかもしれない。トーナメントの初戦でもあるし、いい形でスタートを切りたいからね。とても重要な一戦だよ」

「グループリーグを突破すると、今度はこれまた強豪揃いのグループDを勝ち抜いたチームが待ち受けているわけですが、もしも相手を選べるとしたら？」

「その質問だけは勘弁して欲しい。確かにラトビアとは予選で対戦済みだけど、その答えは僕の心にとまっておくよ」

「優勝候補を挙げるとしたら？」

「グループ内のライバルでもあるイタリア

だろうね。チェコも、ダークホースとして可能性を秘めていると思う」

「現在のスウェーデン代表は、チームとしてはどの程度完成されていると感じていますか？」

「基本的には選手の顔ぶれに大きな変化もないし、非常に良いセレクションだと思ってる。とは言っても、小さな国だから、それほど選択肢もないわけだけだね。選手としての特徴や、個人のキャラクターという意味でも、いい感じで個性が混ざり合った集団になっているし、国際トーナメントでは1か月近くの期間を一緒に過ごすことになるから、チームとしての一体感も更に高まることになるからね」

「アーセナルと代表でプレーする上での

最大の違いは。

「スタイル自体が全く違う。アーセナルでは、足元でパスを回しながら展開する自分たちのサッカーを常に心掛けて試合に臨むわけだけど、代表では、対戦相手のスタイルや特徴に合わせて、自分たちのサッカーを変えなくてはならないこともある。そんなことはアーセナルではあり得ないことさ。それに、代表のスタイルはより守備的で、ロングボールに頼る割合もより高くなる。自分にとってはそうした違いが大きい。ただし、戦術はあくまでも監督の考え次第で、僕は自分に求められる役割を確実にこなすことに集中しているから、精神面での影響はないけどね」

「代表とアーセナルでの、あなたのパフォーマンスの差に関する周囲の意見をどう受け止めていますか？ 代表では持ち味を発揮していないという声もあるようですが。」

「あくまでも求められているものが違うだけのことさ。バス主体のアーセナルのサッカーは僕に向いているんだ。逆に、代表のように頭上をロングボールが行きかうような展開は、自分の持ち味を活かせる状況とは言い難い。代表では、DFの裏を取って前線に抜け出すことよりも、守りを意識してプレーしなければならぬ点については納得しているクラブと代表チームでは、監督が僕に期待する役割も異なるのさ」

「しっかりと折り合いをつけているわけですね？」

「その通り。チームは、とて

も良い感じで進んでいる。自分自身も非常に前向きな気持ちでトーナメントに備えているし、チームの全員がユーロの開幕を心待ちにしている。勝ち進むことは決して容易ではないと覚悟しているけど、本当に楽しみだよ」

「今年スウェーデンサッカー協会創立100周年の記念の年です。期待が高まる中で、自国開催の92年大会でのベスト4を上回る成績を残せそうな予感はない。準決勝、決勝進出までは考えられない。その前に、まずはグループリーグを突破することが先決さ。そうならば、準々決勝以降の一発勝負の世界では何が起るかわからない。とにかく行けるところまで行ってみよう。死力を尽くすよ。最終的にどこまで行けるのかは何とも言えないけど、期待が大きいことは実感している。僕もチームも、100%ポジティブな姿勢でトーナメントに臨むことは間違いないから、楽しみにしていますよ。とにかく、ポルトガルでは、体調も万全なフレドリク・リュングベリ本来のプレーをお見せするよ！」

## PLAY BACK EURO2000

スウェーデンの成績：グループリーグ敗退(1分2敗)



ベルギー、トルコ、イタリアとグループBに入った。初戦でベルギーに1対2で敗戦。トルコ戦はスコアレスドローに終わり、決勝T進出へ崖っぷちに立たされた。イタリア戦は先制されながら、後半32分にヘンリック・ラーションのゴールで追いつく粘りを見せたが、終了2分前にデルピエロに決勝弾を許してグループ最下位に沈んだ。リュングベリは3戦フル出場したが、無得点。